

はてなの缶詰

「PET検査」ってどんな検査なの？



採血検査や遺伝子検査、病理検査など、病院で受けることができる検査はたくさんあります。今回はその中のひとつ、「PET検査」についてご説明します。

「目印」をつけて がんを早期発見する

がんは、実際に腫瘍ができたり、身体に異変が起きたりしてから初めて見つかることが多いので、がん細胞がある程度大きくなってからでないとい発見しにくいと言われています。そこで、早期発見のために用いられるのが「PET検査」です。

PETとはPositron Emission Tomography（ポジトロン断層撮影）の略で、「ブドウ糖を多く消費する」というがん細胞の特徴を活かし、ブドウ糖と同じような働きをする微量の放射線を含んだ検査薬を体内に注射することで、がん細胞に「目印」をつけて発見します。なお、PET検査で受ける放射線は微量ですので、健康上の影響はありません。

また、PET検査は「今行っているがん治療に効果があるのか」についても確認することができますので、検査結果を見ながら治療方針を決めたり、がんが他の部位に転移していないかを調べたりと、すでにがんを患っている方の治療にも役立てられています。

専門の医師が PET検査を行う 「PETセンター」

CTやMRI、内視鏡など、がんを見つけるための方法にはいろいろな種類がありますが、中でも全身をくまなくチェックするPET検査は早期発見が可能なため、多くの医療機関でがん検診時に導入されています（※）。兵庫医科大学病院でも、1号館西側に併設されている「PETセンター」で、専門の医師によるPET検査を受けられますので、ご興味のある方はお気軽に当院スタッフまでお尋ねください。



※胃がんや前立腺がんなど見つかりにくいがんもあるため、検診時に内視鏡や超音波などの検査を併用し、総合的に判断するとより良いとされています。